

# 稲・大豆作情報 (NO. 2)

## 1. 水稲作況情報田の生育概況(7月9日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 cm	茎 数 本/m <sup>2</sup>	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/15 18.1株/m <sup>2</sup>	本 年	38.1	111	6.9	35.0	日照不足の影響から、徒長気味となっている。また、降雨時に深水が続いた圃場では、分けつ発生が抑制されている。
		平 年	35.6	190	7.3	37.9	
		平年比	(107)	(58)少	(-0.4)	(92)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 18.1株/m <sup>2</sup>	本 年	33.1	106	6.6	33.9	深水となった圃場の一部では、スクミリンゴガイによる食害も見受けられた。
		平 年	34.3	187	7.7	39.8	
		平年比	(97)	(56)少	(-1.1)	(85)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/27 18.1株/m <sup>2</sup>	本 年	21.8	73	5.1	未測定	
		平 年	24.5	80	5.9		
		平年比	(89)	(91)	(-0.8)		

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稲。

注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる。

## 2. 水稲管理

### ○今週の水管理(7月9日～7月16日)～冠水した圃場は速やかに排水し、新しい水へ入れ替えを～

- ・排水後、速やかに新しい水と入れ替え、その後一度落水してから、土壌に酸素を供給するために間断灌水を行い、稲体の健全化を図る。
- ・連続した降雨により、苗が軟弱徒長し、スクミリンゴガイの食害を受けやすい状態が続いている。発生量が多い場合は、浅水にして貝の活動の抑制に努めるとともに、薬剤防除を実施する。

### ○除草剤 ～初期剤散布の遅れ、多雨によって薬剤が流亡したと思われる圃場は特に注意を～

- ・中後期除草剤による早めの対策を講じる。

### ○中間追肥 ～ヒノヒカリ、ヒヨクモチ～

- ・元肥を即効性の肥料(BB480等)を使用した場合は次の通り。  
「ヒノヒカリ」：7月5～10日頃に、窒素成分で2kg/10a(BB480で15kg/10a)程度  
「ヒヨクモチ」：7月15日頃に、窒素成分で1.6～2.1kg/10a(BB480で12～15kg/10a)程度

## 3. 大豆管理 ～梅雨明けとなりました！早めの播種作業を～

平年より10日早い7/9に梅雨明けとなった。今後は好天による乾燥が続くと予想されるため、土壤水分が残っているうちに速やかに播種作業を行う。

### ○耕起

- ・荒起は圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。

### ○播種

- ・**種子消毒**：紫斑病や腐敗防止および発芽率の向上のため、必ず実施する。

#### ・播種量：

播種日	栽植本数 m <sup>2</sup> あたり	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月6日～15日	14本	75×20×2	4.0

#### ・播種深度

土壤水分が高い場合や播種後2～3日以内に降雨が予想される時→2cm程度の浅め 鎮圧はしない  
土壤水分が低い場合や播種後しばらく好天が予想される場合→5～6cmの深め 鎮圧する

- ・**除草剤**：播種直後に土壤処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場においては、「ラクサー乳剤」が効果的である。また、近年、隣接圃場の水稲ヘドリフトした事例が多いため、散布時は風速と風向き等に注意する。

